

スクラム組んで未来を共創

佐藤 ひさよし 後援会 News



発行：佐藤 ひさよし後援会・大泉町民懇話会 自宅：仙石2丁目5-21
後援会事務所：坂田1-1-1 (パナソニック構内) TEL：0276-61-9926
～お気軽にご意見・ご要望をお寄せください！～ e-mail:h.s.chara@gmail.com



外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援!

これまでの2期8年間、皆様に、多大なるご支援をいただき、議員活動を進めることが出来ました。

これまでの自分をさらにアップデートし、大泉町の未来を創っていききたいと思っています。

3期目は『人づくり』こそ町づくりをスローガンとし、今まで提言してきた内容をさらに深堀して、未来を担う人材への投資を進めていきます。

『人づくり』を進めることで、町が好循環なサイクルに乗り、子どもから高齢者まで、すべての世代に好影響を与えることとなります。私に与えられた役割をしっかりと果たしてまいりますので、今後とも、ご指導いただければ幸いです。

3月定例会ではこんなことが決まりました



R7年度予算について調査しました!

3月定例会 会期：令和7年 3月3日～19日

予算関係・・・ 12件 条例改正・・・ 8件
人事関係・・・ 3件 その他・・・ 4件

合計 27件

この中から1つを
Pick up

■議案第17号

「令和7年度大泉町
一般会計予算について」

令和7年度の一般会計予算は、237億6900万円です。前年度比、46.3%増となりました。増額の要因としては、新庁舎建設にかかる予算が大きくなっているためです。

- ◆ 令和7年度トピックスとしては、
◆ 新庁舎建設
- ◆ 住民の皆様からも好評である『花火大会』
- ◆ 令和11年度に開催される国スポ、軟式野球に合わせ、『町民野球場の整備』
- ◆ 町役場窓口手続きのデジタル化による効率化
- ◆ 妊婦と胎児の健康を守るため『妊婦歯科健診事業』
- ◆ 治水・冠水対策事業
- ◆ 小中学校の『給食費無償化』
- ◆ 外国人英語指導助手の増員
- ◆ 中学校体育館等への『エアコン設置』
などを含む173の事業が行われます。

妊婦の歯科健診事業、外国人英語指導助手の増員、体育館のエアコン設置など、これまで訴えてきたものが形となって表れてきました。

令和7年度は、これまでにない重要な時期となりますが、これからも、皆さんからいただく意見・要望を踏まえながら政策提言を進めていきます。

＜朝食＞	H28年度	R1年度	R6年度
毎日食べている	80.8%	76.0%	72.6%
食べない時もある	15.7%	16.8%	18.1%
食べないことが多い	—	5.4%	6.0%
食べない	2.3%	0.7%	2.1%
教えたくない・わからない	0.9%	0.2%	0.2%
不明・無回答	0.3%	0.9%	1.0%

＜夕食＞	H28年度	R1年度	R6年度
毎日食べている	91.1%	88.9%	86.2%
食べない時もある	7.6%	8.7%	10.4%
食べないことが多い	—	0.5%	1.0%
食べない	0.2%	0.2%	0.2%
教えたくない・わからない	0.7%	0.1%	0.2%
不明・無回答	0.4%	1.6%	2.0%

子どもの生活実態調査から朝食・夕食を食べない割合が増えているのが見える。

子どもの生活実態の変化はどうなっている？

子どもの生活実態調査は、平成28年度、令和元年度に実施し、令和6年度に、3回目の調査が行われました。

調査結果を見ると、左図にあるように、朝食・夕食ともに『食べない』・『食べないことが多い』を合わせると増加傾向にあります。

子供の食生活は成長や発達において非常に重要な役割を果たし、免疫力や記憶力など、様々なことに影響すると言われていますが、該当する子どもたちが、ど

そのような状況にあつて食べていないのがわかりませんでした。今回の質問で、どの子供が、どのような理由で、朝食・夕食を食べないのかが、わかるように記名式のアンケートを実施してもらうことになりました。

食べたなくても食べられない状況にいる可能性がある状況です。から、しっかりと調査をして、経済的な理由で食べることが出来ない子どもたちがいるのならば、そこに、手を差しのべるのが、私の役割です。

経済的な理由による

体験格差の是正を

体験格差とは、旅行や習い事、休日に友達と遊ぶなど、学校外で行われる様々な体験機会の格差を指します。

経済的に恵まれた子どもは塾や特別なプログラム、習い事などに参加する機会が多くあります。一方で経済的に困難な家庭の子どもは、そのような機会が限られてしまうのは、これまでの研究や調査からも分かっていますし、子どもの生活実態調査からも読み取れます。

そして、体験格差は、世代を超えて経済的格差を生む要因となっていることから、経済的に困難な家庭に対する支援や地域コミュニティなどで多様な体験を提供すること、さらには、質の高い教育を全ての子どもに提供するための政策やプログラムが必要となります。



ブロードリスニングによって民意を可視化!

大泉町としては、『学校教育の充実』、『学習支援事業の充実』、『スポーツ・文化活動機会の提供』を進め、すべての子どもたちの体験格差を是正していく方針を示していただきました。

皆さんの声を可視化し、

政策のアップデートを

AIやデジタル技術の進化により、これまで不可能だった、新しい形の住民参加や政策運営が可能になっていくと言われています。

現在の日本では、AIの活用で世界のトップリーダーになれる可能性があるとされていることから、私たちが積極的使っていくことが、日本全体の利益に繋がっていくこととなります。

デジタルに弱い人への配慮をしつつ、デジタルを推進し、効率的な行政運営を目指していきます。

一般質問の様子が動画で閲覧できます!

